

帥殿の、南の院にて、人々集めて弓**あそばし**しに、  
四段・用 過去「き」体  
下二・用 ⑤作者↓帥殿

この殿わたらせ**給へ**れば、思ひかけずあやしと、  
四段・未 ⑤作者↓この殿(道長)  
下二・未 補助動・四段・未  
サ変・用 ← 尊敬「す」用

中の関白殿**おほし驚**きて、いみじう**震**んじ**申**させ  
⑤作者↓この関白殿 形・シク・用・ウ音便 ④作者↓この殿  
補助動・四段・用・ウ音便 補助動・四段・已

**給**つて、下臈に**おほしませ**ど、前に立て**奉**りて、  
⑤作者↓中の関白殿 断定「なり」用 ⑤作者↓この殿 下二・用 ④作者↓この殿  
使役「す」用 補助動・四段・未 補助動・四段・用 過去「けり」体

まず**射**させ**奉**らせ**給**ひけるに、帥殿の矢数  
上二・未 ④作者↓この殿 ⑤作者↓中の関白殿  
補助動・四段・用 尊敬「す」用

いま二つ**劣**り**給**ひぬ。  
四段・用 ⑤作者↓帥殿 完了「ぬ」終 四段・体

中の関白殿、また、御前に**候**ふ人々も、「いまふたたび  
④作者↓中の関白殿 過去「けり」体  
下二・未 補助動・四段・用 ←

**延**べさせ**給**へ」と**申**して、**延**べさせ**給**ひける  
使役「す」用 ⑤人々↓この殿 ④作者↓この殿 尊敬「す」用 ⑤作者↓この殿  
打消「ず」用 四段・用

を、やすからず**おほしなり**て、「さらば、**延**べさせ  
形・ク活用・未 ⑤作者↓この殿 尊敬「す」用  
補助動・四段・命 下二・未 尊敬「らむ」用 尊敬「す」用 補助動・四段・終

**給**へ」と**仰**せられて、また**射**させ**給**ふとて、  
⑤この殿↓中の関白殿 ⑤作者↓この殿 上二・未 ⑤作者↓この殿  
下二・未 尊敬「らむ」体 補助動・四段・終

**仰**せらるるやう、「道長が家より、帝・后立ち**給**ふ  
⑤作者↓この殿 四段・用 補助動・四段・終  
⑤作者↓この殿 上二・未 尊敬「らむ」体

じものを中心には**当たる**ものかは。次に、帥殿**射**給ふに、  
四段・体 終助・詠嘆 補助動・四段・体  
形・シク活用・体 上二・用 ⑤作者↓帥殿

いみじう**臆**し**給**ひて、御手もわななくけにや、  
サ変・用 補助動・四段・用 断定「なり」用 係助  
形・シク活用・用・ウ音便 ⑤作者↓帥殿

あたりに**だに**近く**寄**らず、無辺世界を**射**給へるに、  
四段・未 打消「ず」用 補助動・四段・已 完了「り」体  
副助形・ク活用・用 上二・用 ⑤作者↓帥殿

関白殿、色青くなりぬ。また、入道殿**射**給ふとて、「摂政  
四段・用 完了「ぬ」終 上二・用 補助動・四段・終  
形・ク活用・用 ⑤作者↓入道殿(この殿) 下二・用

・関白**す**べきものならば、この**矢**当たれ。」と**仰**せ  
サ変・終 断定「なり」未然 四段・命 ⑤作者↓入道殿

初めの同じやうに、**的**の**破**るばかり、同じとこ  
比況「やうなり」用 四段・命 ⑤作者↓入道殿

るに**射**させ**給**ひつ。  
尊敬「す」用 補助動・四段・用 完了「つ」終 上二・未 ⑤作者↓入道殿

帥殿(藤原伊周)が南の院で、人々を集めて競射  
をなさっていた時に、

この殿(藤原道長)がいらっしやったので、思い  
がけず不思議なことだと、

中の関白殿(藤原道隆)はお思いになって驚いて、  
たいへんもてなし(機嫌をとり)申し上げなさつ

て、(道長は伊周よりも)官位は低くいらっしやい  
ましたけれど、(順番を)先に立て申し上げて、

まず射させ申し上げなさったところ、帥殿の(的  
に当たった)矢の数が

もう二本(道長よりも)劣りなさっていた。  
中の関白殿や、また、その前に控えていた人々も

「もう二回(競射を)延長なさいませ」  
と申し上げて、延長させなさったのを、

(道長は)気分が穏やかでなくお思いになって、  
「それならば延長なさいませ。」

とおっしゃって、また射なさろうとして、  
おっしゃられたことには、「道長の家から、帝や

中宮が即位されなざるはずであるならば、  
この矢、当たれ。」とおっしゃられたところ、

同じ当たるにしても、なんと的の中心に当たった  
ではないか。次に帥殿が射なさったが、

たいへん気後れしなさって、御手も震えたため  
あろうか、

的のあたりの近くにさえ寄らず、見当違いの所  
を射なさったので、

関白殿は顔色が青くなってしまった。再び、  
入道殿が射なさろうとして、「私が(摂政

や関白をするはずであるならば、この矢、当た  
れ。」

とおっしゃられると、はじめの時と同じように、  
的が破れるほどの勢いで、同じところに

射なさった。